

改訂の序

多くの呼吸療法を行っている方、学んでいる研修医、看護師、臨床工学技士の方々にとって、本書は基本的な呼吸生理学を理解しやすいとのことで、今回の改訂版の出版となりました。この改訂の狙いは、概念的で理解しにくい呼吸生理学にわかりやすく解説を新たに加えるところにあります。そこで、読者から寄せられた質問に応えた解説を加えました。注目すべき解説につきましては、見やすいMEMOの欄を新しく設けました。また、学んだ呼吸生理学の知識を人工呼吸療法に活かしやすいように、各人工呼吸器が備えているモードについての解説を加えました。さらに、救急車内から診察室内まで広く使用されているパルスオキシメータについて、どのような装置で、使用にあたってどのような特徴があるかも改めて書き加えました。

特に、呼吸生理学の知識を利用して人工呼吸管理を行うにあたり、日進月歩に進歩する人工呼吸器はますます複雑となり、開発に伴って多くのモード名称が氾濫していると言っても過言でない状況です。これでは、呼吸生理を学んでも各々のモードを活用できるようになるには、モードの意味や区別を学ぶだけで大きな勉強の課題となってしまいます。そこで、本書が人工呼吸器と呼吸生理学との架け橋となるように、人工呼吸器の機種によって異なるモードを列挙・解説して、モードが意味するところをわかりやすくまとめました。また、モードによっては類似語としてまとめ、各モードを利用しやすいようにモードの比較表を書き加えました。

本書は今までの診療上で疑問に思ったことを解決してくれるものであり、改めて呼吸生理学の基本に戻って読んでいただくと、呼吸管理における呼吸生理学の知識の大切さがより理解でき、呼吸器の治療や管理の辛さから解放されます。また、日々の臨床で知識のステップアップを目指している方々へは、呼吸生理学がより身近な親しみあるものとなるでしょう。そして、本書は呼吸生理学の神髄をなす重要な部分を中心にまとめましたので、それらを利用した呼吸器治療や呼吸管理が普及していくのに本書が利用されることを望むものであります。

2011年11月

瀧 健治